

2026年4月23日

## 今年で32回目「アフラックのバレンタイン献血」の実施結果について ～冬の血液不足を救い、がん治療を支える～

アフラック生命保険株式会社（代表取締役社長：古出 眞敏）は、今年2月に当社販売代理店（アソシエイツ）の組織である「アフラック全国アソシエイツ会」と共同で「バレンタイン献血」を実施し、約800人が参加しましたので、お知らせします。

今年で32回目となる「アフラックのバレンタイン献血」は、1995年の阪神・淡路大震災への支援活動としてスタートしたボランティア活動です。冬期は、風邪やインフルエンザの流行で全国的に献血者が激減するため年間で最も血液が不足する時期であることから、毎年2月に多くの人に「愛」を贈ろうという趣旨で「バレンタイン献血」と名付け、継続的に取り組んでいます。

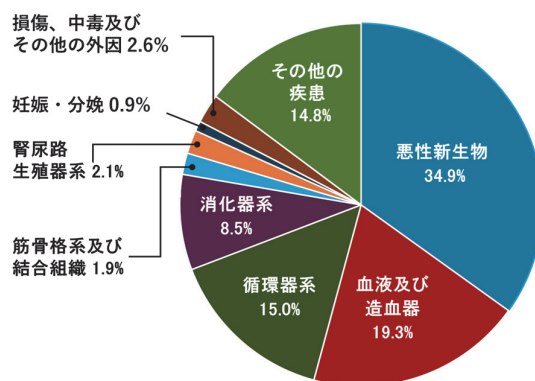


▲献血の様子

この活動は毎年恒例のボランティア活動として、当社役員や販売代理店（アソシエイツ）に広く定着しており、累計で3万3千人を超える当社関係者が参加しています。

当社は、1974年に日本初のがん保険とともに創業し、ブランドプロミスである『生きる』を創る。』をメインテーマとした社会貢献活動を展開しています。日本赤十字社に集められた輸血用血液製剤の3割以上はがん（悪性新生物）の患者の治療に使用されていることから、このボランティア活動は非常に意義があると考えています。

### <疾病別輸血状況(不詳を除く)>



出典：東京都保健医療局「令和6年東京都輸血状況調査集計結果(概要)」

当社はこれまで、「がん保険のパイオニア」として最も長くがんと向き合い、多くのがんと闘う方々を応援してきました。これからも独自の資源と専門性を活かして当社が向き合うべき社会的課題を解決し、社会と共有できる新たな価値を創造することで、ステークホルダーの皆様からの負託と信頼に応えていきます。